

地域のみなさまへ

～ ママたちからの発信！ ～

当日の内容

※当日、ママたちが発信した内容の記録です。「当日資料」部分と合わせてご覧ください。

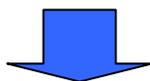
行政について、私たちこんなこと感じています

◆サービスを利用できればと思ったけど…

私は出産の直前に地方から出てきました。いざという時に見てくれる人が周りに全くいなくて困っています。たとえば、私が乳腺炎で熱が40度近く出たとき、子どもを抱っこすることもできない、主人は出張で不在、そういう時に電話をしてもだれも来てくれない。本当に困りました。

「子むすび」というサービスを知り登録したのですが、2時間子どもを預かってもらう利用が普通ということです。2時間だけみてもらうために、協力会員宅へ連れて行って、また帰ってくるのもしんどい。

「一時保育」をお願いすると、ものすごいマニュアル通りの対応で「4時までしかみれません」と冷たい対応。「時間は2時間で決まっています」と結局は利用できず、熱があっても病気をしても、くたくたにくたびれていても、結局自分で見ざるを得ない状況の中で、「子育て支援をしてもらっているのかなあ」とすごく感じました。髪も切りにいけないという状況です。ちょっと不満に感じるが多かったです。



子育て支援のサービスは、ニーズと合う部分と合わない部分とがある。

地域にはいろいろな家庭があって、ママがいて、それぞれの事情や状況に伴った多様なニーズがあるから、利用条件(制約)や想定された利用のカタチがピッタリと合うということばかりではない。「子育て支援」ってなに??

…改めて考えるために、子育てしていて、地域で出会うこと、感じることを、もっと発信し合おう!

◆こんなことがありました！

よく子どもと一緒に散歩をしています。港区はかわいい犬を連れていく方が多く、私も子どもも犬が大好きなので、散歩中犬を見つけると、子どもはいつもなでたがります。

あるとき「犬のなで方のしつけがなっていない」「私の犬は、子どものそばに近寄らせたくない」と言われました。

また、別の所では、かわいい犬に子どもが寄っていき、あまりにうれしそうにしているので、飼い主の方に「何という犬ですか」とか「毎日お散歩されているんですか」とか、いろいろ聞いたのですが、全然反応がありませんでした。話すのは嫌だ、さっさと子どもを連れて他に行ってくれという感じだったので、お話しが好きな方ではなかったのかなと思いました。ところがその方はその後、犬を連れて他の方に、初対面のようにでしたが「こんにちは」「この辺よくお散歩されるんですか」と、自分からすすんで話しかけていました。あっという間にその2人にはコミュニティができて、とても楽しそうに話をされていました。

私は犬を飼っていないので、同じようには無理かもしれませんが、一言子どもに「いくつですか」と聞いてもらえれば、寂しさもまぎれたというか、多分うれしい気持ちで家路につけたと思うのです。

そのようなことが多々あって、公園でも買い物の途中でも、犬を連れてコミュニティみたいな感じで話をされている方々がいるのですが、子どももとても犬を好きだし、犬も多分子どものことをそんなに嫌いではないと思うので、そういうコミュニティの中に、お散歩の途中に少しでも加えてほしいなと、思います。

犬を連れていた人にも、子どもにも、ママにも、みんなそれぞれの事情や想いがある。でも、それを伝え合うコミュニケーションが気軽にとれない状況や雰囲気があって、お互いの立場をわかり合いたいと思ってもそれが難しい…。

◆実はちょっと…

私は4人の子育てをしているのですが、下の子が小学校6年生になり、小さい子とのかかわりが薄くなりました。最近は、公園などに小さい子どものママグループがいると、ちょっと怖いなと思ったり、ベビーカーが何台か直進して来ると、ちょっと怖いなと思うことがあります…。

ママたちも、「お母さん」としての「顔」だけでなく、地域の一員として、いろいろな「顔」や環境があります。

◆仕事のこと、パパのこと、社会のこと…

私は小さいですが港区で会社経営をしているので、学生さんの就職活動に立ち会うことも多いです。ベンチャー企業なので、2時3時まで働いて当たり前という意識が皆さんにあるようで、学生が必ず質問するのは、「結婚できますか」「子ども産めますか」「育児休暇はどうなってますか」などです。多分身近にそういうことをしている人がいないので、できないのではないかとか、できなくて当然の社会、と皆さん思っています。そこで、私が「結婚しているし、子どももいますよ。ここでも働いていますよ」と言うと「えっ、そうなの」という感じと言われることがすごく多いです。

私の周りでも、働いて一生懸命子どもを育てている人もいます。今はいったん仕事を辞めているけれども、いつかまた働きたいと思っているママたちもいっぱいいるということ、若い人たちにもっと実態を知ってほしい。そんな楽にできるわけではないけれども、仕事も子どもも家庭も全部一緒に何とか頑張ればできるんだよ、ということをもっと伝えてあげたいと感じています。

お父さんたちも、子どもができて子どもとかかわりたいと思っているパパってすごく多いです。でも、なかなか会社から6時に帰ってくるのは大変です。やはり、子どもはある程度親と接する時間が今は必要とされているので、少しずつでも「6時以降はファミリータイム」という意識を、企業の中で持っていきたいと思っています。

◆親になるということ、子どもを育てるということ…

親がベストな状態のときに妊娠するとは決して限らない。経済的に大変だったり、ちょっと望まない時期だったり、もともと親のほうに病気や障害を抱えていたり、あるいは子どもが生まれてから病気や障害になったり。

そういう親自身の人生、山あり谷ありの中で、その谷のときでも、乳幼児の大変な時期を過ごさなければいけないのが子育てだと思う。それでも、子どもは産みたい、育てたいというときに、支えられる地域社会であったら本当にありがたい。

◆知ってほしい、地域には…

いろいろなひとがいるよ！！

ドメスティックバイオレンスが原因でシングルマザーになった人もいます。そういうことも含めて、こういう人たちもいる、その中で子育てをしているということを知ってほしい。

私たちのグループはシングルマザーも多いし、うつなどの病気を抱えた人も多い。そうになると外に出られない。一層支援が必要な人たちが、一層発信しにくいという事情もある

自分が母親になって、母の立場の暗い側面というか苦悩が、あまり世間に表現できなかったことがある。「子育てって素晴らしい、楽しい」というイメージが大きくなり過ぎちゃくと、その苦悩が語れなくなってしまう不安もある。支援を本当に必要としている人が、果たして、行政などから支援を受けているのかというと、まだまだ外に出られないお母さんや子どもたちがいるのではないかと…

こういう場を借りて、どんどん発信していくことが大切だと思う。行政と連携していくことも大事だが、私たちグループならではの、NPOならではの、民間だからできることを考え、動いていきたい。

「軽度発達障害」は、保健所の検診では引っ掛からない。「普通」の子ども。でも、何かちょっと育てにくいなと思っていたら、実は…、ということになる。そういうお母さんたちは、まず子育てグループの仲間のお母さんに相談する。言われた方は、見ため普通なので「大丈夫よ、そのうちに言葉も出てくるわよ」と言って、お母さんはそこで納得してしまう。そのまま小学校の就学時検診で引っ掛かり、問題が二重三重に大きくなってからやっと気付く…ということになる。早期に対応していればと思う。ちょっと「何だろう」と思ったら、気軽に相談や話ができる、自分の子どもについて本音で語れるような、そんなサークルが繋がっていけるといいなと思う。

うちは、子どもの障害に気付いたのが中2でした。就学児検診も何もなくて、そのまま来てしまいました。こちらから「うちの子、ちょっと心配なんですけど」と学校の先生に相談すると「もっとすごい子がいるから大丈夫よ」というよくわからない慰め。とりあえず授業中静かにしている、他人に迷惑を掛けない、危害を加えない、そういう限り、多少は勉強できなくても、とりあえず「大丈夫よ」といわれる。もしご心配な方がいたら、バルレのようところで相談を受けるとか、お医者さん、いろいろな所にトライしていくのがいいと思います。うちの子たちもいろいろなタイプがいます。

幼稚園は、いろいろな親子の組み合わせの縮図です。

うちの園では、送迎バスに乗らないので、親と一緒に登園して、父母の会の作業を会議室でしたりして、親同士が一緒に過ごすことが多いので、親同士のつながりが大変強くあります。親同士がまず腹を割って話せる、友だちになることが大事だと思います。

入園後、同じクラスになった保護者が自己紹介をしました。「うちの子はこういう子です」と自分の子どものことを話し合います。ひとり、障害のあるお子さんをお持ちの方がいて、その方が何も言えずに泣き出してしまったことがあります。その時にみんなの気持ちがひとつになったような感じがしました。そしてその方から手紙をもらいました。子どもの病気のことが書いてありました。私たちは無知で、彼女の気持ちを思いやることもできずに、自分の子どものことばかりとくとくと話していたことが恥ずかしいと思いました。その時その場にいた人たちの心が結束しました。「あそこの子はこうだから」「私にはわからない」ではなく、そのお母さんとひとりの人として付き合い合っていくような仲をより広めていきたいと感じました。

未就園児の会についても、障害を持っている子どものお母さんから、行きたかったけれど迷惑をかけるのではと思って遠慮したと言われ、「ああ、そうなんだ」と感じました。私もお会いしなければわからなかったことがたくさんあります。もっと早く気付いて言わなければいけなかった。「来てください」と言いたい。

子育ては、ひとりではできない。子育てで本当に困っている、抱えていることを話す場がないということをととてもよく感じる。だから、いろいろな立場の人が周りにいてくれるとありがたい。

・
・
・

出会うことから始めよう！

★ママも地域の一員。
地域づくりの担い手です。

みんなで子育て考えよう！

発信！

一緒に考えよう！

社会で子育て考えよう！

★ママも子どももいろいろ。いろんな家庭があって、
地域にもいろんなひとがいて、みんなそれぞれ。

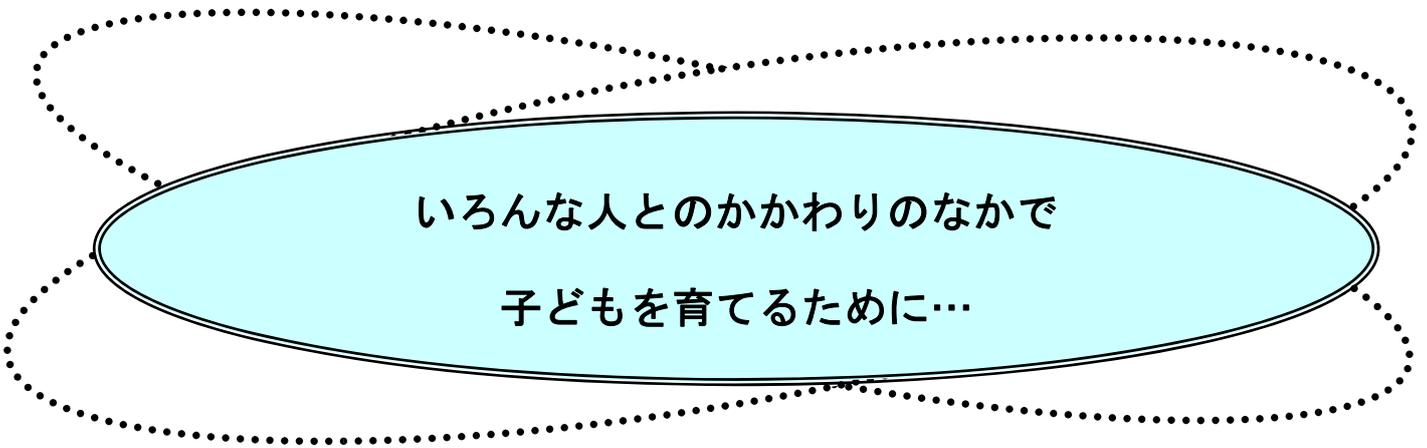
◆こんな地域って、素敵！

自分が生まれた所で子育てをしています。
パジャマのまま駆け込めるうちがあったり、
子どもを預かってくれる所もあります。
そんな関係が地域にあることは、すごく
ありがたいことです。

道で会った小学生が「おはよう」と声を掛け合ったり、
幼稚園に行く途中で先輩ママに会うと「行ってらっしゃい」
と言ってくれる。

ここで私も子どもも育っているのだと感じます。
すごくいいなと思っています。

- ★ いろいろな人に出会いたい
- ★ 心地よく子育てできる「地域」をつくりたい
- ★ いろいろなひととの関係のなかで子育てしたい
- ★ まずはできることから始めよう



いろいろな人とのかかわりのなかで
子どもを育てるために…

◆最後に…

このように発信する場を得たことは、すごく貴重だったと思います。
やはり発信して伝えなければわかってもらえないということがあります。
でも、誰もが発信できる立場にあるわけではなく、できない人たちもたくさんいることを、すごく感じています。地域の人にも、そういうところをわかってほしいと思います。

グループ活動を通して、仲間の中で声に出せない人たちの声を出していけたら…と感じます。

皆さんのいろいろなお話を聞いて、知ることの大切さをすごく感じました。いろいろなことを知って、自分が選択できる、数がたくさんあってその中で自分が必要とするものが、チョイスできるようになったらいいなと思います。

私も4人の子育てをして、夫は単身赴任、その責任が全部私に掛かってきて、母親の大切さや負担が大きいこと、とても実感しています。そういった中で、決して子育てはひとりではない、ひとりだけではない、みんなに愚痴をこぼしてもいいんだということがわかって、肩の力がちょっと抜けた気がします。

本音で語れる場があって、そこで自分もこぼしながら、みんなが幸せになれるためにこれから自分はどうしたらいいのか、ということを感じました。

◆今日はスタートライン！

☆「子育てをささえる地域創り！」を実現しよう☆